

いなかのりんじん

あぐろげいとん

編集：九州教区教会協力委員会

※あぐろげいとん：ギリシア語で「田舎の隣人」の意味。都会の隣人と違い、互いに支え助け合う仲間となることを願って。

「大工の教え」

教会協力委員会委員長
深澤奨（佐世保教会）

木を買わず山を買え

最後の宮大工と言われた西岡常一さんの「法隆寺を支えた木」という本を、教区事務所前の古本コーナー（代金は互助献金になります）で買いました。最古の木造建築・法隆寺の伽藍を守ってきた宮大工の間で代々受け継がれる様々な知恵が詰まった好著です。

その宮大工の知恵の1つに「木を買わず、山を買え」というのがあります。大きな堂塔を建てるとき、建築後の狂いやゆがみをなくすためには、上質で均質な材料を揃えればよいというわけではありません。建物には陽の当たるところ当たらないところ、湿気の多いところ少ないところ、風当たりの強いところ弱いところ、重みのかかるところかからないところ、またそれらの要素が複合的に絡み合うところなど、様々な条件の違いがあります。これらの条件を勘案し、建物の条件を木の生えている山の状態に当てはめて、その山全体に必要な木をそろえよというのが宮大工に伝わる教えだということです。1つの山に生えている木でも、尾根と谷、日向と日陰、風当たりの強弱など、生えている場所によって材質は異なります。聖書時代のギリシア語に「アネモトレフェース／風に育てられた」という形容詞があります。「アネモトレフェースな木」と言えば、粘り強く丈夫な木という意味になります。木は成育環境によって大きさや強さや堅さなどが異なり、概して言えば困難な環境で育つほど、小さく強く硬くなります。それらがうまく組み合わさって初めて1300年以

上朽ちも倒れもしない堂塔ができあがるのです。教会や教区もまた同じでしょう。

杢を生かす

杢という漢字を知っていますか。木工と縦に書いて「もく」と読みます。辞書には「①木で家や器物を作る人。大工。②種々の原因により、通常の板目・柾目とは異なって木材の表面に表れる木目。瘤杢・玉杢・鶉杢・縮杢・如鱗杢・鳥眼杢などがあり、珍重される」とあります。大工や木工職人にとって、まっすぐに木目の通った柾目の板材や角材も重宝しますが、木目が乱れ、美しく複雑な模様の表れた杢は装飾的な用途などで特に珍重されます。複雑な木目をもった杢が生まれるのは、成育環境の厳しさや食害や病気などによるもので、虫に喰われたり、芽を摘み取られたり、病気にかかったりした部分を木は一生懸命いたわって栄養を送り、修復しようとします。するとそこに美しい杢が生まれます。職人はそうして出来た美しい杢の材を用いて世界に二つとない作品を作り上げるのです。

木は痛みを感じるか

しかし、樹木の一部が虫に食われたり病気にかかったりしたとき、木には神経も頭脳もないのに、どうやってそのことを知り、その部分を癒すのでしょうか。詳しくは解明されていないようですが、ポプラの一枚の葉を傷つけると、同じ木の別の無傷な葉で遺伝子(DNA)の転写が起こり、メッセンジャーRNA(特定の細胞の設計図)が作られ、導管を伝って傷ついた部分に届ける



れる現象が知られています。頭脳を持たない樹木でさえ、一部の痛みを他の部分が察知し、癒したり強めたりする物質を受け渡すのです。そして痛んでいた部分には、美しい壺が生まれる。そんなふうに造られていることに感動を覚えます。そして同時に思うのです。わたしたちもまたそのように造られているに違いないのだと。

「わたしは葡萄の木、あなたがたはその枝である」。「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶ」。「力は弱さの中でこそ十分に発揮される」。

大工だったイエスやその教えを受け継いだであろう旅のテント職人パウロの言葉が「木霊」のように響いてきます。

教区三役から「教区互助に寄せる思い」②

証しのために

教区総会副議長 日下部遣志（川内教会）

副議長になってから、今まで3回の就任式を担当させていただいた。そのすべてが、1年或いは半年の無牧を経て、新たに迎えた牧師の就任式であった。9月に予定している喜界教会の就任式も、丸山邦明教師が隠退された後、1年の無牧を経ての牧師着任である。その喜界教会を含め、そのすべてが、九州教区謝儀保障を受けているか、またはそれまで受けていた教会であった。

そのような教会の就任式を担当させていただくと、無牧の期間を経てようやく新しい牧師を招聘することができたことの喜びを一緒に実感することができ、私としてもその喜びに与ることができる恵みの時となる。1年といえども、小さな教会にとって、無牧の時を過ごすことは、日々の通信物、様々な支払い、毎週の礼拝一週報や説教者のことなど、様々なことを教会員でこなしていかなければならない。そんな教会にとって、小さな群れに果たして牧師を呼ぶことができるのだろうかという不安がつきまとうのは、至極当然のことと言えるのである。教区互助は、そのような教会にとって頼りになるものでなければならない。九州の宣教をみんなで担うという思いを持って、互助を受ける教会も含めすべての教会が、すべての教会の宣教を共に担う思いで献げられ、用いられるものなのだと思う。

17年前、私が九州教区に初めて赴任したとき、その時も1年間の無牧の後の就任であ

った。無牧の1年間、当時のある役員が毎日教会に寄り、通信物を管理して下さっていた。その方が、牧師着任後、「教会の前を通ったとき、門が開き、牧師館に電気が付いているだけでうれしかった」とおっしゃった。それは教会員のみならず、その地域の人達にとっても同じだったことを後で知った。教会の門が開けられ、牧師館に灯りがともっていること。これが週ごとの讃美歌の歌声と同じように、その地域の人達に対する証しとなっていたの

である。教区互助献金がそんな証しのために用いられると思えば、みんな感謝をもってそのために献げたいと思う。



その教会で忘れられないのは、ある年の年度末、会計役員が「こ

のまま行けば十万円近い赤字です」と更なる献金を訴えられていた。年度末最後の礼拝後、会計役員が私を呼び、封筒に入った十数万円の献金を見せてくれた。匿名の献金であったが、その献金によって、その年度は赤字決算を回避することができた。地方にある教会は、そんな信徒の方々の献金で支えられていることを実感した。とにかく、教会を支えると同時に、そこにいる牧師を支えるために。

無牧の教会が増えている。もう無理だとあきらめている教会もあるかも知れないけれども、みんなでもっともっと献げて支え合うことができれば、無牧の教会は減るかも知れない。その分だけ、教会が立つ地域への証しが進められていく。そのことを覚えて、献げていきたいと思う。

各地区互助推進担当者からのメッセージ 主イエスの教えを心に留めて 佐賀地区・有尾榮子 (伊万里教会)

佐賀地区には5教会と2伝道所(うち1伝道所は、教区・地区との交わりが途絶えており、実質は5教会1伝道所)があり、九州教区内の県単位でいえば、一番小さい群れです。実質6つの教会・伝道所で現住陪餐会員平均が16名(最大35、最小4)、礼拝出席平均15名(最大27、最小6)という教勢で、無牧の1教会・1伝道所を他の教会の牧師の応援で礼拝が守られています。単独で教師を迎えることが難しくなっています。

当教区では、互助推進担当者は地区の会計が兼ねることになっており、ここ数年は4年ぐらいで交替しています。献金方法は、教会によって毎月定額献金のところと設置してある献金箱(袋)等で随時捧げられるところがあります。

現在唐津教会がこの互助制度の支援を受けていますが、教師は他の仕事にも就

き、また隣町の伝道所の兼務もされながら、宣教の業に励んでおられることに感謝しております。過去にも私が所属している伊万里教会も長い間この支援によっ

て、教師と教会員をお支え頂きました。しかし、今では単独では受けられる条件を満たせないほどに教勢・財政とも小さくなっている教会が増えています。これからは、小さい2教会で1人の教師を招くためにこの互助を受けたいという状況になるかもしれません。

地区の諸活動での教会員との交流の折は、親しい交わりの中で小さい者を覚え互いに支え合い、地区の伝道に努めるよう祈り合っています。

主イエス様の小さき者への深い愛と互いに愛し合いなさいという教えを心に留めて、互助推進担当者として、今後さらに互助献金への理解と協力を訴えていきたいと思っています。



教区伝道費援助金を受けて

久留米櫛原教会牧師
玉城 豊

年間の伝道礼拝と1月の奥園淳先生によるチャペルジャズコンサートのために教区伝道費援助金を下さり、心から感謝申し上げます。

チャペルジャズコンサートは、創立記念日礼拝の午後に行なわれ、昼から来て下さった方々や、久留米東町教会の方々も含めて、39名という参加者で楽しいひとときを

過ごすことができました。特に奥園淳先生自ら初めてという、曲目と聖書との関わりを説明するという場面もあって、ジャズを一層理解することができました。

他方、年間計画で取り上げた月一回の伝道礼拝は、普段のマタイ福音書講解説教とは違って、神の憐れみや恵みといった主題を分かりやすく説き明かすことを目標として、始めたものです。コールいずみのメンバーやぶどうの会の方々がこの日を覚えて来て下さるようになり、一定の成果が出てきています。

また、この日にはできるだけ反原発などさまざまな署名運動のご紹介をして、ご協力を訴えています。



もらってうれしね

前号でも掲載いたしました講壇用聖書（新共同訳）。皆さん、遠慮なさってませんか。どちらからもまだ手が上がりません。

とある教会で、一部水に濡れてしまい、教会員から新しいものが献品されたため、余ってしまったとのこと。新品ですと 10 数万円もする代物です。水に濡れた部分にめくりにくいところがあるそうですが、大きな支障はありません。講壇用の聖書をお入り用の教会がありましたら、教区事務所までお知らせください。教会協力委員会がお取り次ぎいたします。



※「探してます」「譲ります」の情報が他にもありましたら委員会までお寄せください。

互助献金中間報告（2014年6月末現在）とさらなるお願い

2014年度も4半期が過ぎました。昨年度は目標の1100万円に対して約944万円！前年を50万円近く上回ったものの、目標には遠く及びませんでした。今年度はその昨年の同月と比べてもさらに低迷しています。消費税の導入や物価上昇などにより家計も教会財政も一層厳しい状況であろうことと思いますが、厳しいときこそわたしたちは助け合わねばなりません。

特に懸念しているのは**すべての教師が収入の1%を目標に献げる**ことを教区総会で決めて取り組んできた「**教師互助献金**」のことで、年々参加する教師数が少なくなってきました。しかし是非すべての教師が参加され、模範を示していただきたいと思います。教会からの互助献金と教師互助献金をまとめて送金しておられる場合は、送金の際、教師互助献金も含まれている旨とその金額を事務所にお伝えください。教師互助献金が献げられますと、教区総会議案報告書の教会毎の互助献金報告に※印がつかます。これをずらっと並べましょうよ！

もうひとつ、緊急援助献金のお願いです。年々激しさを増す台風や豪雨によって大きな被害が出ますと、現在ある援助金のストックはすぐにもなくなってしまいます。こちらも覚えてお献げ下さい。

2014年6月末現在

教会互助献金	912,100円（20教会）
うち教師互助献金	160,300円（15名）
教会緊急援助献金	0円

ちなみに

昨年同月	
教会互助献金	1,047,700円（23教会）
うち教師互助献金	214,100円（16名）
教会緊急援助献金	0円